

仕事始め

2024.1.4

お正月三が日を過ぎ、1月4日が仕事始めの日である。年末年始と6日間しか休みはなかった。それでも、年が改まっただけで、気分がだいぶ違う。何だか、シャキッとする。多くの人は、現状に満足はしていないだろう。だから、新しい年を迎え、気持ち新たに頑張ろうとする。また、世の中の平和、家族の健康などを願う人が多いのも事実である。

私の場合だが、今までの仕事始めとは状況が違う。これまでは、先を見通すことができた。新年とは言っても、学校の場合は、3月でいったん切れる。4月からまた同じような仕事内容であればいいのだが、今回の仕事始めに関しては、4月からの見通しを立てることができない。とりあえず、3月までをどうするかとなる。だからといって、第4コーナーをまわって、ギアを上げ、ラストスパートという気負いのようなものはない。今までと変わらず、自然体でいきたい。ただ、立つ鳥跡を濁すだけは避けたい。

中学校の場合は、すぐに私立高校入試が始まるため、お正月気分は一気に抜け、現実と対峙するようになる。まもなく、進路が決まる生徒も出てくる。生徒にとっても、教員にとっても、大事な時期である。

これからは、毎年、1月4日を迎える心持ちが変わっていくように思う。そのうち、仕事始めではなくなるだろう。自分が、どんな状態で1月4日を迎えるのか、想像がつかない。考えてみると、大学を出てからは、30年以上にわたり、同じような1月4日を迎えていた。それが、変わっていく。経験したことがない領域に入る。今までは、与えられてきた1月4日だった。何も考えず、受け身でもよかった。これからは、そうはいかない。自分で考えなければならない。実は、こういうことに慣れてはいない。大丈夫だろうか。

職場の先生方は、当たり前のように、前年までと同じリズム、ペースを保って、今日から動き出す。それが、当たり前なのかもしれないが、当たり前を維持することは簡単ではない。先生方の意識、責任感、使命感などの問題である。そう考えると、まずは「ありがとうございます」という言葉が出てくる。感謝である。こちらは、謙虚にならざるを得ない。

先行き不透明な時代が続く。変革の時代である。子どもたちが、これから歩いていく道は、決して平坦ではないだろう。子どもたちが、自分の足で力強く未来を切り開いていくためには、今まで以上に教育の力が必要である。子どもたちが、世の中に出ても、やっていけるだけの力をつけさせなければならない。仕事始めの日に、そんなことを考えた。